

クラス	316	担当教員	中嶋理香
テーマ	障害理解		
著書・論文 研究課題等	<p>幼児期・学童期の障害理解教育とその教育を担う学生育成 — 障害をテーマとする絵本リストの作成 — 名古屋芸術大学研究紀要 第42巻 221～241頁 (2021)</p> <p>肢体不自由児通園施設に通う幼児を対象とした成長, 生理, 栄養評価 ～摂食嚥下機能の発達支援を目的に～ 日本福祉大学教育教職課程研究論集 第22号 17～36頁 (教職課程年報 2021)</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：障害理解 絵本			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>目的：障害のない幼児・児童生徒に対して行う「障害理解教育」をテーマとする。</p> <p>インクルーシブ教育の実践が多くなるなか、子ども達の障害観を育てる試みも増えている。子ども達の障害観がどのような発達経過をたどって形成されるのか、そこに大人、特に教育に従事する者が果たす役割とその方法について考えることをテーマとしている。学習目標は、教育に従事する者として、自分なりの障害理解教育に対する考えを持つことである。</p> <p>内容：書籍・実践報告等を読みながら、「障害理解教育」の現状を理解する。</p> <p>絵本に描かれている障害を取り上げ、幼児・児童生徒が障害に対して抱くイメージを通して、障害理解の発達を学ぶ。教育学的な視点よりも「発達の」視点を重視する。</p> <p>方法：各自で論文等の内容を発表し、議論する。</p> <p>ゼミ生がレポーターとなって自分の興味関心のある実践報告書を発表する形式とする。この活動を通じて、①これまで総合演習や教育学演習を通して学習した図書館の利用や文献の検索の仕方を生かすことができる。また、日本における「障害理解」教育の現状を評価し、自分自身の「障害理解教育」の在り方を検討することができる。発表を通じて、②プレゼンテーションの方法について学ぶことができる、③議論を進める効果的な方法、特にファシレーターとしての役割について学ぶことができる。</p> <p>授業計画：前期は主に論文等を読み、学生自身の障害に対する知識を深める。1・2年生で学んだ知識を深め、日常生活で「障害」をもって生きることについて知る。</p> <p>後期は、「障害をあつかった絵本」を読み進めるとともに、その内容について議論する。障害の描かれ方の適切性、子どもに与える印象について各自の視点で「絵本を評価」する。この活動を通して、教育実践に生かせるようになることを目的とする。</p> <p>評価：ゼミへの出席、積極的な発言、他のゼミ生との協力、レポーターやファシリテーターとしての役割の担い方について評価する。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>3・4年の合同ゼミで他学年との交流する機会を多く持ちたいと思います。「障害」を取り上げていますが、子どもの発達の興味関心のある方を望みます。あなたの障害観は、どのように形成されたのでしょうか。そこには「あなたの経験」が積み重なっていると思います。そこを解きほぐしながら、差別、区別、マイノリティ、平等、グローバリゼーションなどの問題とも向き合いたいと思います。</p> <p>卒業論文の準備も3年生から始めます。答えのない問題・課題に対して「答えを探しながらゆっくりと考える」「答えのない課題」とうまく付き合える人、問題意識をもってゼミに積極的に参加できる人を希望します。</p> <p>子どもとかかわるボランティア活動を行っている人を希望いたします。</p>			